防衛協会かがわ

ブルーインパルス６番機
撮影：横井事務局長（2019年撮影）

ブルーインパルス　宮城県松島基地　第４航空団所属　第１１飛行隊

ー大空に「夢・感動」を描く　アクロバットチームー

航空自衛隊を広くＰＲする華麗なアクロバット飛行を披露する専門チーム。６番機１名のパイロットは香川県出身です。

６番機パイロット：浅香 光司　一等空尉

出身校：香川県立坂出高等学校

出身期別：航空学生６７期

ＴＡＣネーム：ＴＡＫＡ

前任部隊：第３０４飛行隊（那覇基地）

INDEX

新年のご挨拶 …… 香川県防衛協会会長　佐伯　勇人 … ２
陸上自衛隊第１４旅団長　大場　剛 … ２
自衛隊香川地方協力本部長　上田　俊博 … ３
香川県防衛協会この１年 …… ４～５
第６２回香川県防衛協会定期総会 …… ６
防衛大学校及び横須賀基地研修 …… ７～８
全国防衛協会連合会女性部全国大会 …… ８～９
青年部部長就任にあたって …… ９～10
事務局長だより …… 11
第１４旅団広報 …… 11～14
受賞おめでとうございます …… 15
連絡 …… 16

新年のご挨拶

香川県防衛協会
会長　佐伯勇人

新年明けましておめでとうございます。

香川県防衛協会会員の皆様方におかれましては、ご家族ともども健やかに、佳き新年をお迎えのことと、心からお慶びを申し上げます。

さて、国際社会は、戦後最大の試練の時を迎え、普遍的価値やそれに基づく政治・経済体制を共有しない国家が勢力を拡大しており、既存の秩序は深刻な挑戦を受けるなど、新たな危機の時代に突入していると言われています。

我が国を取り巻く安全保障環境も戦後最も厳しく複雑なものとなっています。中国は軍事力を急速に増強するとともに、尖閣諸島周辺を含む東シナ海や太平洋などでの活動を活発化させ、北朝鮮は核・ミサイル開発を進展させ、弾道ミサイルなどの発射を強行しています。また、ロシアはウクライナ侵攻を継続させるなかで、北方領土を含む極東地域での活発な軍事活動を継続させている状況です。

国内に目を転じますと、昨年は新年早々からの能登半島地震に始まり、4月には豊後水道地震、9月には奥能登豪雨など災害が多発し、その都度、自衛隊は災害派遣活動により被災者や国民に寄り添うことで、多くの国民から益々信頼を得ています。一方、深刻な人手不足社会を迎えるなか、人材獲得競争はより熾烈なものとなっており、自衛隊員の確保も非常に厳しくなっていると伺っています。

このような環境の下、第14旅団は、大場旅団長の指揮のもと、米陸軍との実動演習（オリエント・シールド24）を行うとともに、陸上自衛隊演習に参加し、各種事態に即応する「機動旅団」として作戦能力向上を図られています。また、能登半島地震に対する災害派遣活動にも従事され、南海トラフ地震に備えた旅団災害対処演習にその教訓を反映されています。

私は昨年、当協会の研修で防衛大学校を見学する機会があり、その中で香川県出身の学生と面会いたしました。彼らに防大入学を目指したきっかけを尋ねると、即座に「東日本大震災での自衛隊の活躍を見て、自分も人の役に立ちたいと思い入学を決意した」、「高校一年生の時から防大入学を決めていた」といった返事があり、その志の尊さに頭が下がると共に、非常に感銘を受け、目頭を熱くしたことを覚えております。この学生達が初心を忘れることなく、士気高く自衛隊で活躍してもらえるよう、当協会としても、引き続き支援活動を充実してまいりたいと決意を新たにした次第でございます。

第14旅団の皆様には、引き続き、国民の期待に応えるべく、四国4県の防衛・警備はもとより、南西地域等の防衛任務に邁進され、その重責を果たされることを切に期待しております。

また、自衛隊香川地方協力本部の皆様には、自衛隊と県民を繋ぐ架け橋として、引き続き、募集・援護・広報業務等にご尽力いただきたいと存じます。

当協会は、今後も自衛隊に対する支援・協力を力強く進めていく決意であり、特に、自衛隊員の確保に対する支援や会員の増勢についても、より一層力を入れてまいります。会員の皆様方におかれましても、引き続き、自衛隊を支える良き理解者として、当協会の事業活動に力強いご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びになりますが、本年が皆様方にとって、幸多き一年となりますことをご祈念申し上げまして、年頭のご挨拶といたします。

年頭の辞

陸上自衛隊第十四旅団長
陸将補　大場　剛

新年あけましておめでとうございます。

香川県防衛協会の皆様におかれましては、令和七年の清々しい新年をお迎えのことと、心よりお慶び申し上げますとともに、昨年は、旅団の記念行事への共催、高松定期演奏会での日米合同演奏会の開催へのご協力等第十四旅団に対する格別のご支援を賜り深く感謝申し上げます。

さて、国際社会は国家間の競争が益々顕在化し、力による一方的な現状変更やその試みが既存の国際秩序に対する深刻な挑戦となり、戦後最大の試練の時を迎え、新たな危機の時代に突入しています。

我が国が位置するインド太平洋地域は、グローバルなパワーバランスが大きく変動する安全保障環境と課題が最も際立つ地域であり、核兵器を含む大規模な軍事力が拡大され、今後も流動的な状況が続くと予想されます。

中国は、透明性を欠いたまま、核・ミサイル戦力を含む軍事力を増強するとともに、尖閣諸島周辺をはじめとする東シナ海、日本海、さらには西太平洋など、いわゆる第一列島線を越え、第二列島線を含む海域へ活動域を広げつつあります。また、台湾周辺においても度重なる軍事演習により、台湾に対する軍事的圧力を高めています。

北朝鮮は、我が国を射程に収める弾道ミサイルに核兵器を搭載できる能力を既に保有していると見られ、その軍事動向は我が国の安全保障にとって一層重大な脅威で

あるとともに、地域と国際社会の安定を損なうものとなっています。

ロシアは、ウクライナ侵略中にあっても、北方領土を含む我が国周辺で中国と共同での活発な軍事活動を継続させています。

国内においては、昨年一月一日に発生した能登半島地震、八月の日向灘地震を受け南海トラフ臨時情報（巨大地震注意）の初めての発令に加え、全国各地での記録的な大雨による大規模災害の頻発など、国民の生活に甚大な影響を及ぼしています。

その中で我々第十四旅団は、四国の防衛・警備、災害対応のほか我が国に脅威が及ぶ際は、全国へ機動展開し抑止・対処の中核を担う部隊として日夜厳しい訓練に励み、国民の負託に応え地域の皆様から信頼される強い部隊となれるよう努力して参りました。なかでも七月には、米陸軍との実動訓練において日米の共同対処能力を向上させるとともに米海兵隊との日米合同演奏会により日米同盟の絆を深め、十月には全陸上自衛隊が参加する陸上自衛隊演習において増強第十四旅団が機動展開から敵の侵攻を阻止する一連の行動を演練し、その実力を着実に向上させました。加えて、南海トラフ地震をはじめとする各種自然災害に対しては、昨年四月に発生した豊後水道地震において自主的に部隊を行動させて被害状況を確認させるとともに、迅速かつ的確に対応するため、徳島・香川・愛媛・高知各県の防災訓練を通じて災害対処能力を向上させるほか、各県の自治体・部外関係機関等との連携強化に努めてまいりました。

本年も与えられた各種任務を必ず達成するため「万事任務が基準」を合言葉に、いかなる事態にも即応できるよう「実力の進化」を図り、さらに発展できるよう努力して参ります。

しかしながら、任務は決して我々のみでは成すことはできず、関係部外機関や各自治体等との連携が不可欠です。また、隊員募集や退職隊員の援護等においては、「地域との連携」なくして我々が組織を維持し、任務遂行に邁進することは困難であります。このため、日頃から香川県防衛協会をはじめ、関係機関との連携強化に努めて参ります。

結びに、香川県防衛協会の益々のご発展と会員皆様のご健勝とご多幸をご祈念申し上げますとともに、旅団に対し変わらぬご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げ、新年のご挨拶と致します。

新年のご挨拶

自衛隊香川地方協力本部長
一等陸佐 上田 俊博

新年明けましておめでとうございます。

香川県防衛協会の皆様におかれましては、令和七年の新年をお健やかにお迎えのこととお慶び申し上げますとともに、平素より自衛隊香川地方協力本部に対し、格別のご支援とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

旧年中は、香川県防衛協会において様々なイベント、行事が開催されました。十一月には、研修旅行が実施され、神奈川県におきまして、主に海上自衛隊横須賀基地、防衛大学校、明治時代の各種遺構を多くの会員の方々が研修されました。特に防衛大学校においては、香川県出身の学生への激励を実施されるとともに、学生からの感謝の言葉と学生生活に対する意気込みについて挨拶を受けました。彼らは一年生であり、初めて郷里を出ての集団生活の中、同郷の先輩の方々の激励にさぞかし、勇気づけられたと思います。また、研修された皆さんも、初々しく、かつ凛々しい学生の姿を見て感銘を受けたのではないでしょうか。その他、防衛協会の皆様には、三月に香川県入隊・入校予定者激励会、七月には自衛隊高松定期演奏会を、それぞれ開催して頂きました。特に、定期演奏会では、初の日米共同演奏となり、参加された方々に多くの感銘を与え、大変喜んで頂けたものと実感しております。香川地本としてもそれら行事を支援させて頂くとともに、地域のイベントへ積極的に参画して広報活動を実施する等、募集活動を行って参りました。さらには、隊員の再就職援護及び予備自衛官等の管理についても地道な活動を継続してきたところであります。

本年も香川地本は地域と自衛隊の懸け橋として、厳しい募集環境の中ではありますが、引き続き人材確保に努めるとともに、現職隊員が退職の日まで安心して職務に専念できるよう円滑な適職援護と処遇の向上に努めるなど人的基盤の充実を図っていくことに加え、予備自衛官等の適切な管理を行って運用の実効性向上に寄与していく所存ですので、今後とも深いご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりますが、香川県防衛協会の益々のご発展と、会員皆様方とご家族ともどものご健勝とご多幸を祈念申し上げ新年の挨拶と致します。

香川地本マスコット
モリーヌくん
『本年も香川地本をよろしくお願いいたします。』

香川県防衛協会 この1年

２月１８日
自衛隊ヘリ（ＵＨ－１）体験搭乗

坂井理事以下役員・会員１４名が善通寺駐屯地において実施された「令和５年度自衛隊ヘリ（UH-1）体験搭乗」に参加した。当日は天気にも恵まれUH-1の安定性とパイロットの技術の高さを実感しながら、約２０分間上空から瀬戸内海の景色を堪能した。また体験喫食等も実施され貴重な体験となった。

３月９日
令和６年度入隊・入校激励会

自衛隊協力３団体が主催し、穴吹学園ホールにおいて、令和６年春、自衛隊入隊・入校激励会を開催した。当日は、各協力団体代表者、来賓及び入隊等予定者の親族等をお招きし、盛大に行事を実施した。来場した入隊・入校予定者は、各団体代表及び来賓の激励の言葉を受け、力強く自衛官への第一歩を歩み出した。

令和7年行事予定

1月30日	自衛隊協力団体賀詞交歓会
3月 1日	第14旅団音楽まつり
3月 9日	令和6年度自衛隊入隊入校予定者激励会
4月	女性部役員会
	善通寺駐屯地記念行事
5月	本会役員会
	掃海母艦高松入港歓迎行事
	第55回中国・四国地区自衛隊協力団体長会議
6月	青年部総会
	全国防協会連合会定期総会
	香川県防衛協会第63回定期総会
	第47回自衛隊音楽隊高松定期演奏会
10月	青年部研修
	本会研修
	全国防衛協会女性部研修大会

７月１３日
第４６回
高松自衛隊定期演奏会

第１４旅団は四国で初の日米合同演奏となる第４６回高松定期演奏会を開催した。中副会長以下役員・会員が出席した。本番までの合同練成がわずか２日と過密な日程ではあったが、言葉の壁を越えて絆を深めることができ、県民へ日米共同の理解及び防衛思想の普及に大いに貢献できたものと考える。

７月１９日
自衛隊香川地方協力本部第１級賞状受賞祝賀会

令和５年度の募集等業務の成果が評価され、自衛隊香川地方協力本部が第１級賞状（防衛大臣表彰）受賞したことを祝して祝賀会が開催され、本会を代表して泉副会長が出席し、受賞の栄誉を称えるとともに地本隊員の日頃の労をねぎらった。

４月２８日
第１４旅団創隊１８周年・
善通寺駐屯地開設７４周年記念行事

第14旅団創隊18周年及び善通寺駐屯地創設74周年記念行事が、開催され、本会から佐伯会長が出席した、約1万人の来場者で賑わう活気に満ちた記念行事となった。なお、本記念日において、黒川副会長及び大村女性部副部長が第14旅団長から感謝状を授与された。

５月２４日・２５日
海上自衛隊艦艇見学

海上自衛隊掃海母艦「うらが」掃海艇「みやじま・あおしま」が一般公開のため５月２４日・２５日の間、高松港に寄港した。３艇が寄港した岸壁は連日大勢の見学者で賑わい、当会からも副会長以下役員・会員が多数参加し特別公開に参加した。

第62回 香川県防衛協会定期総会

香川県防衛協会は令和六年七月四日、高松市国際ホテルにおいて第六二回定期総会を開催した。

総会では、令和六年度事業報告、収支決算報告及び監査報告に関する件、令和七年度事業計画、収支予算に関する件、役員改選及び顧問・相談役の委嘱に関する件について審議し、原案通り承認・可決された。

総会後、場所を瀬戸の間に移して懇親会を開催した。佐伯会長の挨拶から始まり、ご来賓の紹介の後、久保副会長の乾杯の発声で祝宴となり、会員同士、来賓を交えながら終始和やかな雰囲気の中で懇親会が行われた。

なお、役員改選は次のとおり。

◆ 役 員 改 選 ◆

【香川県防衛協会】

役職名	新　　任	退　　任
副会長	株式会社タダノ 代表取締役会長　多田野　宏一	株式会社タダノ 名誉顧問　多田野　榮
理　事	高松市議会 議長　大見　昌弘	高松市議会 議長　白石　義人
	――	矢次　誠一郎
	四国機器株式会社 代表取締役　木村　公信	四国機器株式会社 取締役相談役　木村　信行
	郷友連盟 会長　林　政夫	郷友連盟 会長　草薙　昭典
	株式会社坂井工務店 代表取締役　坂井　亮介	花房住宅株式会社 代表取締役　花房　ノブ子

【女性部】

役職名	新　　任	退　　任
副部長	清水　まり子	――
	大村　里美	――
理　事	――	安井　周子
	――	清水　まり子
	――	大村　里美
	増田　由美子	林野　元子
		佐藤　信子

【青年部】

役職名	新　　任	退　　任
部　長	高松帝酸株式会社 代表取締役社長　太田　貴也	株式会社坂井工務店 代表取締役　坂井　亮介

◆ 顧 問 ・ 相 談 役 の 委 嘱 ◆

【香川県防衛協会】

役職名	新　　任	退　　任
顧　問	自衛隊香川地方協力本部長 上田　俊博	自衛隊香川地方協力本部長 小田　剛
相談役	日本通運株式会社四国支店 支店長　井藤　美智子	日本通運株式会社四国支店 支店長　清水　明

防衛大学校及び横須賀基地研修

香川県防衛協会　理事　坂井　亮介

２０２４年11月15日（金）～11月16日（土）に防衛大学校及び横須賀基地研修に行ってきました。会員31名と香川地本から上田本部長をはじめとする３名の方にご参加いただきました。両日とも曇り時々雨の予報でしたが、晴れ男の佐伯会長のお力添えで終始傘を使わなくてよい天候に恵まれました。

午前６時10分に高松空港集合という大変早い時刻の出発でしたが、横須賀到着後、観音埼灯台に行き、東京湾の眺めと潮風を感じながら皆さん活き活きとウォーキングをされていました。その後、昼食を取り防衛大学校に行きました。

役員の方が表敬訪問をされている間、私たちは講堂や資料館を見学しました。

私は防衛大学に訪れたのは今回が初めてでした。まず驚いたことは、広大な敷地と威厳があり、清潔に管理された建物群でした。敷地は約65万平方メートル、建物の延面積は約24万平方メートルもあるそうです。一般の学校の競技場は複数の部活が使用するため、面積は少ないですが、防衛大学生は部活動の時間帯が限られているため、陸上競技場、ラグビー場、サッカー場等、全ての競技場が敷地内に併設されています。

次に驚いたことは、学生に外国人も在籍していたことです。全校生２０００名のうち、約２００名が12か国の外国から学びに来ているそうです。彼らは将来、自国軍隊の幹部になり、日本との交流を一層深める担い手になるそうです。

一通り施設の見学を終えた後、いよいよこの研修の目的である香川県出身者の学生の慰問が始まりました。全学生で香川出身者は５名いるそうですが、授業中で参加できない学生もおり、今回は明石さんと植村さんが私たちを迎えてくれました。明石さんは女性、植村さんは男性の共に一年生でした。

文武両道で有名な防衛大学での生活は大変厳しいものだと想像しますが、二人とも目を輝かせて自分の志を語ってくれました。防衛大学の学生綱領であります廉恥・真勇・礼節を見事に実践しており、同郷であることの誇りを感じました。

防衛大学前にて

その後、防衛大学校を後にして次の目的である海上自衛隊横須賀基地に移動しました。香川県出身者である馬場一佐、三好一佐にご案内いただき、特務艦「はしだて」の艦内を見学いたしました。戦闘能力がある他の艦艇と異なり、「はしだて」には火気が装備されておらず、塗装を変えれば一見民間のフェリーのようなこの船の任務は災害派遣や来賓客への接遇、広報活動だそうです。

特務艦「はしだて」を背に

来賓を迎える船のため、内装は木が多く使用されており、インテリアと機能性を兼ねておりました。甲板では１００名を超えるパーティーが行われることもあるそうです。また艦内の会議室ではフルコースの料理の会食が行われるそうです。

昨今、世界のミリタリーバランスや政治情勢が不安定な時代になってきている現代において、

各国要人との結びつきはより重要さを増しています。「はしだて」で任務を遂行されている自衛官の皆様には、今後とも国民や諸外国との懸け橋になっていただきたいと思いました。

旅の目的である部隊研修と慰問激励を終えた私たちはその後、夕食会場である横須賀ビールへ向かいました。待ちに待った乾杯です。横須賀ビールに到着した際、なんと元14旅団長、そして昨年の研修でもお世話になりました前第7師団長である遠藤充陸将が駆けつけてくれました。今は防衛大学校の副校長をされているということで、益々のご活躍に胸が躍りました。

ここのお店は様々なビールが飲み放題ということでした。やはりお酒の時間は楽しいもので遠慮なく浴びるほど頂きました。

朝が早かったことと、おいしいお酒のおかげでしっかり睡眠をとることができました。

翌日はバスで三笠公園へ向かい、猿島へ行きました。私は三笠公園へは何度か訪れたことはありましたが、猿島は初めてでした。アニメ「天空の城ラピュタ」の世界観が感じられる島だそうですが、まさにその通りでした。ペリー来航以降、外国の脅威に対抗すべく要塞化した猿島には各世代の砲台の跡や、弾薬を運ぶための工夫、隊員の住居など様々な建築物があり、歴史を経て苔が生え非現実的な空間を堪能できました。

その後、世界三大記念艦である「みかさ」を見学しました。私は3度目の見学でしたが、日本の歴史の転換期を作ったこの船を見るたび、気が引き締まります。

Z旗を眺めながら、鎖国状態だった江戸時代から、ペリー来航の衝撃を受けてわずか数十年で世界に追いついた日本という国の力をこれからも信じていきたいと思います。

今回の旅行は2日間でしたが、2日とも濃密な時間を過ごすことができ、私の記憶の新たな1ページを刻むことができました。計画いただきました横井局長、香川地本の皆様、歓迎いただいた施設の皆様、そして佐伯会長ご夫妻をはじめとするご参加いただいた会員の皆様、大変楽しい時間をありがとうございました。

次回もどうぞよろしくお願いいたします。

全国防衛協会連合会女性部in鳥取の参加と香川県防衛協会女性部研修旅行

香川県防衛協会女性部　部長　今田　宏子

車中は久しぶりの研修の旅なので賑やかな空気であった。

令和六年十一月六日・七日の研修は、総務課長の豊福伸幸氏、総務課の担当の藤川昌也氏が同行して十八人の出発で、朝は曇りで、鳥取地方は四十％の降水確率。

鳥取砂丘や砂の美術館をまわって、楽しい時間を過ごしてから、総会、講演会、懇親会が開かれるホテルニューオータニ鳥取に到着。

総会は令和元年に新しい会の仕組みを決めて、開催地を全国を持ちまわりで開く事になった。大分、千葉、高知、奈良、鳥取と開かれて来たが、会員の高齢化が進んできて、現在の女性会長が健在なうちに、総会も新しくスキームしてブロック制にすることで負担が少なくなるのではとの案が決議され了承された。

日本列島を五つに区分した。

- **●北海道・東北　ブロック幹事　千歳・宮城**
- **●関東・東海　ブロック幹事　千葉・群馬**
- **●北陸・近畿　ブロック幹事　大阪・奈良**
- **●中国・四国　ブロック幹事　徳島・高知**
- **●九州・沖縄　ブロック幹事　宮崎・大分**

香川県は中国・四国のブロックに入り、徳島県の田岡批呂子さんがブロック長となり、今後の総会は中国・四国で開かれ部長・副部長の少人数で開かれる事が決まった。

講演会の演題は「わが国の安全保障政策と課題」。講師は元統合幕僚長(第四代)岩崎茂氏。

日本の軍事予算が少なく、中国は日本の軍事予算は何十倍を軍事にかけて、日本の領海に何度も侵入して来ている。空では無人機で日本の領空内に侵入して、領空侵犯するので航空機で領空から追い出すことを一日に何度も行っている。相手国に対して目を離せない日々で、課題は山ほどあり、対応にあたっているが、領海・空への侵入は日増しに頻繁になっているようだ。

いつ日本もウクライナのように隣国から侵入されないとも言えないが、今は防衛されて平和を維持している日が長く続いて欲しいと講演を聞きながら強く感じた。

懇親会は来賓の小林弘樹中部方面総監、伊藤秀人舞鶴地方総監、稲月秀正西部航空方面隊司令官、平井伸治鳥取県知事、深澤義彦鳥取市長等の、出席で豪華な会になり、全国の女性部会員の出席は147名の参加であった。

余興は「しゃんしゃん傘踊り」と「すずっ子踊り」で一段と華やかな会になった。

料理はカニかなあ?と思ったが漁はまだ解禁前であった。

次の日(七日)に研修地に行く途中に、白兎神社に寄る。この神社は日本医療発祥と縁結びの神様として由緒がある、と伝えられている。

米子駐屯の連隊長阿部正昭一等連隊長とは勤務の都合で、お会いする事が出来なかったが、高知県女性部と同行して、基地の説明を伺った。

有事の折り、至急に出動するように、隊員は日々整備訓練をしている様子の説明もあった。

次に資料館に案内されて、思わず胸がせつなくなる思いを抱いた。

若い特攻隊の両親に宛てた巻紙に筆で書かれた最後の手紙を読み、当時十九歳から二十三歳の若者の文章から、頭脳明晰と達筆である事から、すぐれた青年たちであったのだと思った。当時は、国を思い命令には従わざるを得ない状況である。その心情はいかばかりか。国を愛する為、帰る事もなく飛び立って行った隊員たちの犠牲で今の日本の平和な日々であることを忘れず、次の世代に長く語り継いで行かなければ、と強く思った。

昼食は駐屯地の食堂で、メニューは肉じゃがのコロッケ、みそナムル、味噌汁、白菜とハムのおひたし、栄養たっぷり。

今回は出勤、作業の都合で香川県出身の隊員との面会交流は無かった。

基地を後にして、途中テレビCMで登場した「ベタ踏み坂」に寄道する。正式名江島大橋と言う。島根県、松江市八束町から島根県境港市渡町へ中海をまたいで結ぶ、日本一PCラーメン橋で全長千四百四十六メートル。五千トン級の船が下を通れるように、最上部は高さ約四十五メートルに達している。

渡る前、前方を見ると、高くそびえ立っていて、本当に渡れるのかと不安であったが、バスは楽々と渡ってほっとした。

昨年「ぜひ鳥取に大勢で来て下さいね。お待ちしてますから。」と言って下さっていた、石破佳子会長が総理夫人でファーストレディになり、急遽会長を退めて、お会いする事が出来ず同行した女性部の方々も残念がっていた。今回の研修旅行は有意義な総会、研修、天候にも恵まれた旅であった。

青年部部長就任にあたって

青年部　部長　太田　貴也

令和7年度より香川県防衛協会：青年部の青年部長を拝命いたしました太田貴也でございます。引き続き、郷土の防護・防衛と発展、そして防衛協会の諸活動に貢献させていただければと思います。よろしくお願い申し上げます。

周囲の人に「香川県防衛協会の青年部長になりました」と言うと、「えッ、それは何の仕事ですか?」と必ずきかれます（笑）。冗談で「いやぁ～香川県を防衛しているのですよ」と一旦は答えます。が、実際は香川県を防衛してくれている人達、【自衛隊】を防衛（支援）しています。いざ、外部から侵略があった際に、武器を持って走り回ったり、家族を連れて逃げ回ったり、したくありませんからね。

さて、2025年にもなって、こんなに紛争が世界中で起こるとは思っておりませんでした。ウクライナ侵攻からのガザ地区の紛争が続き、年末は韓国の戒厳令、シリアの崩壊などがありました。21世紀も四半期を終えようとしている中で、人類は歴史的にも「交渉」という面倒なプロセスではなく、「実力」という一見、容易にも思える手段で外交を解決しようとする癖があります。その外交の相手を「その気に」させないのが、抑止力である自衛隊の第一の存在意義と思っています。

国内でも2024年1月1日に能登半島地震が発生しました。その際に自衛隊の初動が遅いなどと、一部の報道にはありましたが、それはメディアが直接現場に入れないからで、実際にはかなりの部隊が活動を始めていました。

また、自衛隊の最重要の任務は国防です。それは、組織だった外部からの侵略を阻止できる唯一の戦力は、自衛隊しかないからです。ウクライナやガザの報道を見ると、本土が戦場になると、生命も財産も、街も文明も、何もかもが無くなるということは、明白です。

一方で、自衛隊は自己完結能力が高いと言われますが、別に何かを生産しているわけではあ

りません。国内で活動するにあたり、国家や民間というスポンサーがないと、資金も土地も燃料も弾薬も手に入りません。国家の最後の防衛線である自衛隊の存在意義は、平和な日本において、災害派遣の時にしか実感できないかもしれません。

防衛協会が自衛隊の広報活動に協力することで、自衛隊の戦力と実力を肌で感じてもらい、災害時のみならず外部からの侵略の際にも「この人たちが守ってくれるのだ」と感激してもらえると、スポンサーである国民も自衛隊を応援しようと思ってくれます。

香川県防衛協会の目的としては、大きく分けて「退職自衛官の再雇用支援」「新隊員の募集支援」そして、そのための「市民の自衛隊対する理解の浸透」が役割であると心得ています。香川県防衛協会の青年部としても、防衛協会の実働部隊の一部として、防衛協会のサービス向上、具体的にはオンラインなどを活用した情報発信や、イベントの周知、申し込みなど、皆さんがもっと自衛隊と触れ合って、理解が深まるような活動をしていきます。引き続き、よろしくお願い申し上げます。

事務局長だより

香川県防衛協会 理事兼事務局長　横井　貴典

新年あけましてめでとうございます。

会員の皆様には、日頃から当協会へのご支援ご協力に深く感謝申し上げます。

令和7年の事務局長だよりは、5月に徳島で開催された中国・四国地区自衛隊協力団体長会議の報告からスタートします。

中国・四国地区自衛隊協力団体長会議とは、中国、四国9県の自衛隊協力団体（防衛協会、隊友会、自衛隊家族会）が年一回持ち回りで開催しており、主な開催内容は、自衛隊への支援内容の情報交換、自衛隊の憲法への位置付けや、自衛官の処遇改善を政府に陳情する要望書の作成、中四国を守る陸海空自衛隊のトップと協力団体会員との懇親です。

防大 遠藤副校長 表敬訪問

当日の団体長会議各県各団体から発表された意見には、「この会議の開催意義を見直す必要があるのでは」「このまま政府への陳情を重視して続けるべき」等の意見が入り混じり、まとまりが無かったのですが、総じてこの会議の方向転換を検討すべきとの意見が多かった団体長会議でした。

近く香川県が主幹し開催する予定ですが、今後の会議の運営を真剣に議論すべき時期に来ていると実感しました。

次に防衛協会の研修旅行は、防衛大学校と横須賀基地研修を実施しました。

詳細は坂井さんの記事をご覧頂く事とし、私が感銘を受けたのは、香川県出身学生の慰問激励の場面で、1年生2名の学生が駆けつけて頂きました。

その初々しい中にも、日本に防衛にむけた高い志に接し、大変感銘を受ける共にこの学生達が自衛官として誇りが持てる自衛隊にすべく、協会として更なる支援が必要な事を強く思いました。

最後に今年の航空祭に参加して実感した事を報告します。

令和6年は自衛隊創設70周年の記念の年で、航空自衛隊では戦闘機等へ記念塗装（スペシャルマーキング）を多数施しており、スペマ塗装のF15、F2、T4等が航空祭に花を添えていました。

戦闘機の機動飛行展示のプログラムも、映える内容に拘っており、将来のパイロットを目指す子供達の心くすぐる内容でした。（飛行機マニアのおじさん達も大喜び）

又、プログラムや展示飛行やアトラクションの内容に、自衛官の募集を強く意識した各種多くの設営が多く見られ、将来の自衛官確保に向けてあの手この手の努力をされていました。

自衛隊を支援する団体として、これ迄以上の支援に我々に何が出来るのか？協会会員へのサービス内容の見直しや会員増強も含めて、早期に議論を重ね検討し、進めて行く事が重要である事を痛感した年でした。

第14旅団創隊18周年及び善通寺駐屯地開設74周年記念行事

第14旅団（旅団長　大場剛陸将補）は、4月28日、善通寺駐屯地において「第14旅団創隊18周年及び善通寺駐屯地開設74周年記念行事」を開催した。

今年は「実力の進化～地域とともに未来へ～」をテーマに第14旅団隷下部隊及び善通寺駐屯地所在部隊の隊員750名が観閲式に参列した。観閲式では、部隊の洗練された行動と隊員の輝きある眼差しで旅団の真姿を示すとともに、模擬戦闘訓練では、最新の装備を駆使し、隊員の躍動をもって真に戦える第14旅団・善通寺駐屯地を表現した。

式辞を述べる大場旅団長

大場旅団長は式辞において「地域の皆様から信頼され、国民の負託に応えられる強い部隊であるため、万事任務が基準を合言葉にいかなる事態にも即応し、与えられた任務を完遂できるよう『実力の進化』を図るとともに『地域との連携』を常に意識して取り組んでいこう。」と決意を述べた。

アトラクションでは、4年ぶりとなるオートバイドリルで来場者を魅了するとともに、5年ぶりのWAPCの体験試乗に多くのファンが整理券を求めて行列を作った。

開門を待つ長蛇の列の先頭の男性は、「朝6時に来ました。今日の目当ては16式機動戦闘車です。」と、嬉しそうに話された。今回の記念行事には、約1万人の方々にご来場いただきグラウンドで行われたアトラクションを撮影したり、第14旅団が保有する主要装備品に触れ楽しんでいただいた。

第14旅団及び善通寺駐屯地は、実力を進化させ、常に即応性をもってその能力を発揮できる旅団を目指すとともに地域を愛し、地域に愛される駐屯地であり続けることを目指す。

観閲式の様子

観閲行進

オートバイドリル

模擬戦闘訓練

ＷＡＰＣ体験搭乗

装備品展示

旅団集合教育「レンジャー」

胸に輝くダイヤモンド 最強戦士へと成長し帰還

第14旅団（旅団長　大場剛陸将補）は、6月17日、善通寺駐屯地（香川県）において、旅団集合教育「レンジャー」の帰還式を実施しました。

厳しい基礎訓練間に行われる特別の体力評価に合格し、行動訓練へと駒を進めた隊員たちは、行動訓練開始式において教育隊長（富田祐樹1等陸尉）から「①自分に負けるな。」「②チームとして成長せよ。」「③自分の安全は自分で守れ。」の3点の教えを受け、過酷な行動訓練に臨みました。

数次にわたって行われる行動訓練は、任務遂行中はもとより、駐屯地で次の任務に向けた整備や準備をしている時すべてが緊張の連続の中で行われます、回を重ねるにつれ厳しくなる任務内容から食事・睡眠が制限され、体力・気力が限界を迎える極限状態の中、見事最終想定を終えた隊員は、歴代受け継がれるレンジャー旗を掲げ善通寺駐屯地へ帰還しました。帰還報告を行った戦闘隊は、大場旅団長より最終想定の状況終了宣言を受け、晴れてレンジャー徽章を授与されました。

旅団長は、新たに誕生したレンジャー隊員に対し3カ月の苦労や努力を労うとともにこれからもより一層の飛躍を期待し「旅団レンジャー隊員としての誇りを堅持し、練成を継続せよ。部隊長をはじめ部隊隊員、同期及びご家族に感謝せよ」を要望しました。

陸上自衛隊で最も過酷な訓練といわれる「レンジャー訓練」を自ら志願し、肉体的・精神的に厳しい訓練を乗り越え、憧れのレンジャー隊員となった各隊員は様々な現場において、最も困難な任務に投入されます。レンジャー隊員としてのスタートを切った隊員は、期待される任務に結果を出せるよう練磨を続けます。

空からヘリにより示されたポイントでリペリングを行う隊員

目標地点へ向けて潜入開始

最終想定を終え、善通寺駐屯地へ帰還

旅団長に対し帰還報告を行う隊員

状況終了を宣言する旅団長

旅団長からレンジャー徽章を授与される隊員

第１４旅団各部隊による
戦闘隊の出迎え

家族・部隊からの
激励を受ける隊員

指導部一人ひとりとの握手

指導部の労いの言葉に感極まる隊員

念願のレンジャー徽章を手に
じっと見つめる隊員

旅団集合教育「レンジャー」 隊員所感

第15即応機動連隊　3等陸曹　本馬場　天空

レンジャー隊員に憧れがあり、自分自身のスキルアップ、自分の限界を知るために志願しました。レンジャー集合教育では、レンジャー隊員に必要な各種戦闘戦技訓練、特に山地潜入、水路潜入、空路潜入など実戦的な訓練をしました。また、食事や睡眠がほとんど取れない中での長距離の行動訓練においては何度も限界を感じました。その中でも数時間にわたり任務（Mission）に必要な装備を背負い暗夜の山の中を歩き続け苦しさがいつまで続くのか見通しがつかなかった時が一番苦しかったです。それでも、同期と力を合わせて何とかこの日を迎えることができ、今となっては本当に耐えてよかったと思っています。教育を通じて自分の限界、弱さを知ることができました。まだまだ未熟な為、さらに磨きをかけて成長していきたいと思います。

仲間の搭乗間、周囲を警戒する本馬場３曹

指導部の労いの言葉に感極まる本馬場３曹

日米合同演奏会 ～「音楽」に壁はない！～

第14旅団（旅団長　大場剛陸将補）は、令和6年7月13日、第3海兵遠征軍音楽隊（沖縄県）を招き、第14旅団として四国地区では初の日米合同演奏会を実施しました。

合同演奏会を迎えるにあたり、日米が揃って練習を始めたのは本番の2日前であり短期間での練成でした。編成の当初は、同じパートの隊員同士が集まり演奏し、後半は言葉の壁を乗り越え積極的に連携を取り合い、本番に向けた演奏を完整させていきました。

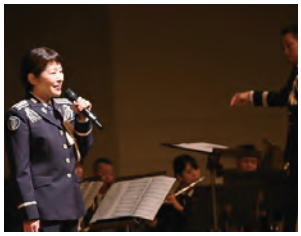
本演奏会は、香川県自衛隊協力団体が主催する「第46回自衛隊音楽隊高松定期演奏会」の場で披露され、第一部は、第14音楽隊（隊長　平林誠1等陸尉）が和楽器を使用した演奏を取り入れ日本らしい演奏で会場を盛り上げると、第二部では第三海兵遠征軍音楽隊のビックバンド形式による迫力のある演奏で会場の熱気は最高潮に達しました。第三部は日米両音楽隊での合同演奏を行い、日米の指揮者による演奏をお届けしました。米側の指揮をとった第3海兵遠征軍音楽隊のバンドマスターであるマイケル・スタンリー特務曹長が練成中から何度も伝えてきた「言葉の壁はあっても音楽の壁はない。」という言葉の通り息の合った演奏を披露しました。

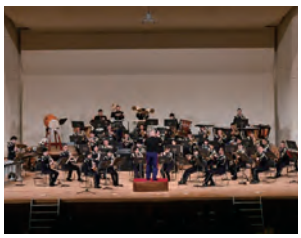
音楽を通して強固な日米同盟を観客の皆様にご覧いただきました。

第１４音楽隊と第３海兵遠征軍音楽隊

▶▼各パート毎コミュニケーションを取り合う隊員達

大いに盛り上がった会場の様子





受賞おめでとうございます

防衛大臣感謝状

令和６年１０月２６日

香川県防衛協会　監事　　鈴木　喜弘　様

陸上幕僚長感謝状

令和６年１１月１６日

香川県防衛協会　常任理事　　山田　公子　様

第１４旅団長感謝状

令和６年４月２８日

副　会　長　　黒川　裕之　様

女性部副部長　　大村　里美　様

香川地方協力本部長　感謝状

令和６年１２月４日

青年部副部長　　小泉　直也　様

女性部前理事　　林野　元子　様

全国防衛協会連合会会長　感謝状

令和６年５月２７日

常 任 理 事　　松井　勝也　様

香川県防衛協会会長　感謝状

令和６年７月４日

「自衛官の再就職援護協力に対する功績」

百十四ビジネスサービス株式会社　殿

香川県防衛協会会長　表彰状

令和６年７月４日

「協会の事業遂行に対する功績」　理　　事　　坂井　亮介　様

「女性部の事業遂行に対する功績」　女性部理事　　武田千登世　様

「青年部の事業遂行に対する功績」　青年部理事　　髙尾　裕子　様

香川県防衛協会に入会される方をご紹介下さい。

香川県防衛協会では組織の拡充と活性化を図るため新会員を募集中です。
防衛協会に入会し、自衛隊を見学・応援しましょう。
法人団体・個人・青年・女性の方々のご入会お待ちしています。
お電話にてご連絡ください。直ちに入会資料をお送りします。

※HPからの受付も可能です。

TEL：080-8633-2737　　担当：横井

ホームページ：https://www.kagawa-bouei.jp/

ホームページ　入会申込フォーム

香川県防衛協会 事務員さんのご紹介

鳥田　伊津美 さん

船曳　祐香里 さん

明るく元気に
精一杯がんばります！
よろしくお願いします。

編集後記

昨年のお正月は能登半島地震で始まりました。能登は秋にも豪雨災害なども有りました。一年を通して日本各地で本当に災害の多い一年でした。したがって自衛隊の皆さんとっても災害派遣の多い年として記憶に残る年でした。

今年、善通寺駐屯地は開設75年を迎えます。記念式典も予定されています。これからの香川県防衛協会は第14旅団をみんなで応援していきましょう。

「防衛協会かがわ」
編集室　久保　智彦　横井　貴典
発行所　香川県防衛協会
〒七六〇―八六九一
香川県高松中央郵便局
私書箱111号
TEL　〇八〇―八六三三―一一七三七
印刷所　㈱万成社
〒七六〇―〇〇四一
香川県高松市百間町五―二
TEL　〇八七―八二二一―三三八八